

令和6年度
第1回
代議員会

<http://shochueiken.com/>



岐阜県小中学校英語研究部会

令和6年5月15日（水）

9:45～10:30 [予定]

※9:30よりミーティング開始

zoomによるオンライン会議

※表示名は【所属校 お名前】でお願い致します。

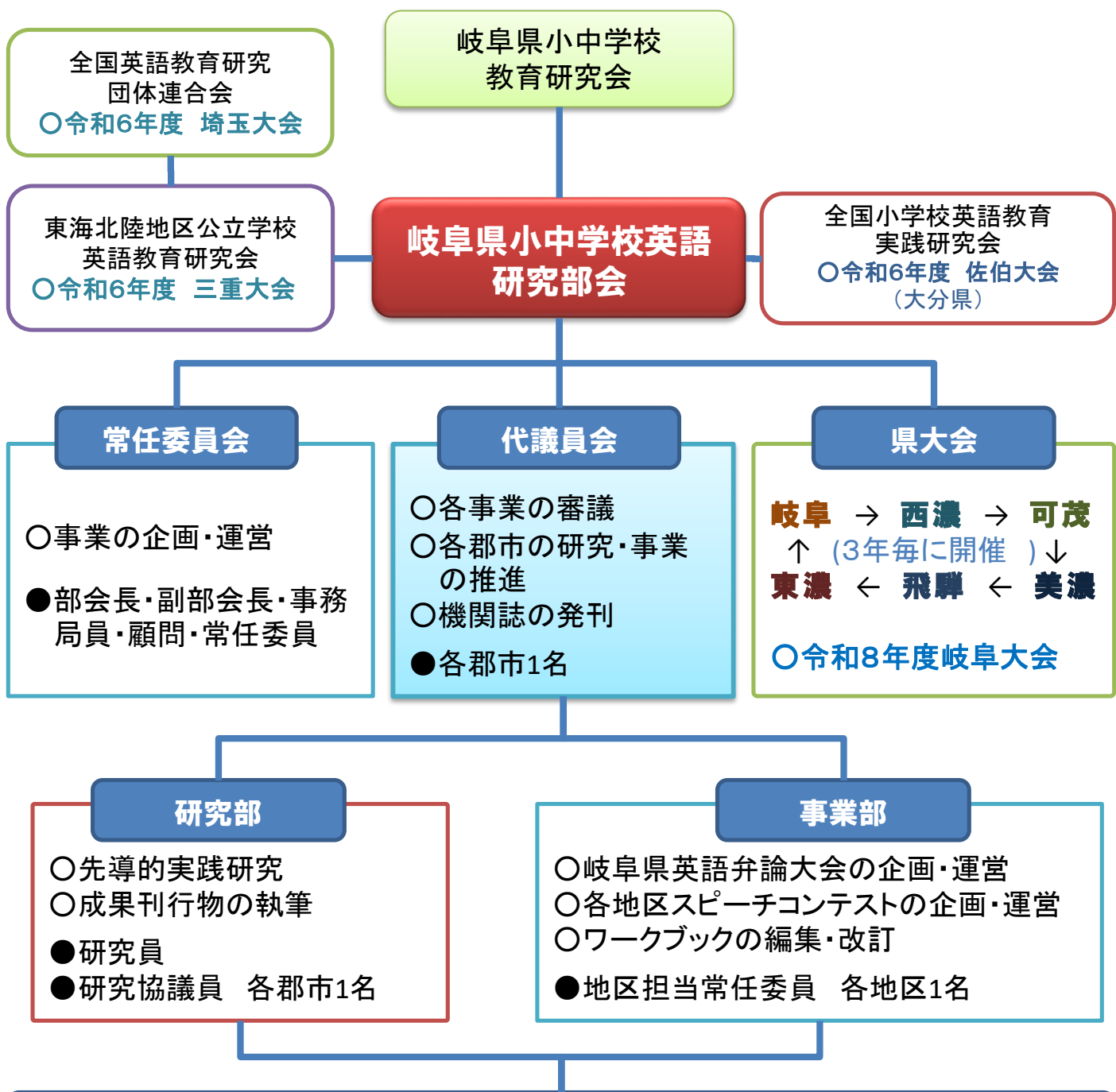
第1回代議員会

令和6年5月15日(水)

*zoomによるリモート開催

時間	内容・会場
9:30	ミーティング開始 <ul style="list-style-type: none">・表示名は【所属校 お名前 (例) 下有知中学校 田中大輔】 【開始まで】 <ul style="list-style-type: none">・9:45までは、カメラOFF・マイクOFF(ミュート) 【開始してから】 <ul style="list-style-type: none">・カメラは、可能な方はON・マイクOFF(ミュート)・発言や議決の際は、カメラON・マイクON・トラブルがありましたら、主務者までチャットでお知らせください。 【終了後】 <ul style="list-style-type: none">・常任委員会を行います。役員の先生方はお残りください。
9:45	全体会開始 <p style="text-align: right;">司会【主務者：田中 大輔 関市立下有知中学校】</p> <ol style="list-style-type: none">1 部長あいさつ(5分) 【中村 行雄 中津川市立南小学校】2 本年度の研究(15分) 【小学校：松田 洋和 多治見市北栄小学校】 【中学校：後藤 健一 大垣市立西部中学校】3 本年度の事業内容(5分) 【石黒 崇人 各務原市立蘇原中学校】4 予算、旅費など(5分) 【中島 聡志 岐阜市立草潤中学校】5 本年度の活動(10分) 【田中 大輔 関市立下有知中学校】<ul style="list-style-type: none">・質疑応答・議決6 その他(5分)
10:30	全体会終了 <ul style="list-style-type: none">・常任委員会を行います。役員の先生方はお残りください。・役員以外の先生方は、各自でご退出ください。

岐阜県小中学校英語研究部会 (小中英研) 組織



地区名	岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区
市郡名	岐阜市 羽島市 各務原市 山県市 瑞穂市 本巣市 羽島郡 本巣郡	大垣市 海津市 養老郡 不破郡 安八郡 揖斐郡	関市 美濃市 郡上市	美濃加茂市 可児市 加茂郡 可児郡	多治見市 土岐市 瑞浪市 恵那市 中津川市	高山市 下呂市 飛騨市 大野郡

岐阜県小中学校教育研究会 岐阜県小中学校英語研究部会 会則

(名称)

第 1 条 本会は、岐阜県小中学校教育研究会 小中学校英語研究部会(略称 県小中英研)と称する。

(目的)

第 2 条 本会は、岐阜県小中学校の英語教育推進のための事業及び研究交流を行うことを目的とする。

(会員)

第 3 条 本会の会員は、岐阜県内の小中学校、或いは他の教育機関に勤務し、英語教育の携わっている者、並びにこの会の目的に賛同して入会を希望する者とする。

(事業)

第 4 条 本会は、第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 研究大会の開催及び大会への援助
- 2 研究調査と研究内容の相互交流
- 3 中学生英語スピーチコンテストの開催
- 4 研究成果のまとめと成果刊行物・機関誌の発行
- 5 全国英語教育研究団体連合会等の研究団体への参加
- 6 その他、目的を達成するために必要なこと

(役員)

第 5 条 本会には、次の役員を置く。

部会長、副部会長(若干名)、事務局員(主務者、研究部長、研究副部长、事業部長、事業副部长、書記、会計)、顧問(若干名)

(役員の仕事)

- 第 6 条
- 1 部会長は、本会を代表し会務を総理する。
 - 2 副部会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
 - 3 事務局員は、本会の会務を処理する。
 - 4 顧問は、本会が円滑に運営されるよう助言をする。

(役員を選出)

第 7 条 本会の役員は、会員のうちから次の方法で選出する。

- 1 部会長、副部会長、事務局員、顧問は、代議員会で選出する。
- 2 会長には、小中学校長をもって充てる。
- 3 副部会長には、次期県大会開催地区の会長及び小学校長1名を含むことを原則とする。
- 4 顧問は、県内各教育機関、学識経験者の中から適当と思われる者を充てる。

(役員の仕事)

第 8 条 役員の仕事は1年とするが、再任を妨げない。ただし、主務者については1回までの再任を原則とする。

(常任委員)

第 9 条 常任委員は、特別常任委員、専任常任委員(研究部常任委員・事業部常任委員)、地区常任委員の外、監事、評議員、及び地区顧問を充て、会長が指名した後、代議員会の承認を得る。ただし、地区常任委員は、第1回代議員会において互選の上、選出する。

- 2 評議員は、本会を代表して岐阜県小中学校教育研究会委員を兼ねる。
- 3 地区顧問は、地区ごとに開催されるスピーチコンテストの責任者を務める。
- 4 特別常任委員は、必要に応じて会長が指名することができる。

(機関)

第10条 本会には、次の機関を置く。

・代議員会 ・役員会 ・常任委員会 ・研究協議員会

(代議員会)

第11条 代議員会は、本会の議決機関であって、各郡市より1名ずつ選出された代議員と役員、常任委員で構成し、年2回部会長が招集するほか、必要のある時には臨時に開くことができる。

2 代議員会は、次の事項を審議決定する。

- 1 会則等の改正に関する事
- 2 役員等の承認に関する事
- 3 研究及び事業の大綱に関する事
- 4 その他本会の運営に関する事

3 代議員会は、代議員数の3分の2以上の出席をもって成立し、審議事項の議決は、出席者の過半数をもって決する。ただし、会則の改正は、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(役員会)

第12条 部会長は、必要に応じて役員会を招集することができる。

(常任委員会)

第13条 常任委員会は、役員及び常任委員をもって構成し、本会の執行機関としてその目的を遂行するための会務を行う。

(研究協議員会)

第14条 研究協議員会は、役員、常任委員、研究員及び研究協議員(各郡市1名)で構成され、代議員会の決定に従って会務を推進する。

2 研究員は、会員の中から部会長が指名し、代議員会で報告する。

(経理)

第15条 本会の経費は、会費、補助金、その他の収入をもってこれに充てる。

2 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 本会の事務局は、主務者の勤務する学校に置くことを原則とする。

(規定)

第17条 本会の運営に必要な規定は、別にこれを定めることができる。

付則 この会則は、昭和45年4月1日より施行する。

昭和54年4月1日 一部改正

昭和63年4月1日 一部改正

平成11年4月1日 一部改正

平成20年4月1日 一部改正

平成22年4月1日 一部改正

平成23年4月1日 一部改正

平成25年4月1日 一部改正

平成29年4月1日 一部改正

令和6年度 岐阜県小中学校英語研究部会 本部役員・事務局員・常任委員・研究員

■本部役員

部会長		中 村 行 雄	中津川市立南小学校
副部会長	小学校研究部担当	尾 崎 友 美	山県市立高富小学校
	中学校研究部担当	清 水 浩 樹	中津川市立加子母中学校
	事業部担当	平 田 昌 隆	関市立旭ヶ丘中学校
	岐阜大会担当	武 藤 広 朗	岐阜市立鶉小学校
顧問		尾 石 光 正	多治見市立北栄小学校
		佐 藤 幹 彦	各務原市立蘇原中学校
		田 中 正 樹	大垣市立江並中学校
		渡 辺 英 哉	美濃加茂市立東中学校
		勝 部 佳 純	瑞浪市立日吉小学校
		武 部 八 重 子	本巣市立根尾学園
		岸 貴 彦	岐阜大学教育学部附属小中学校

■事務局員

主務者		田 中 大 輔	関市立下有知中学校
研究部長	小学校部会	松 田 洋 和	多治見市北栄小学校
	中学校部会	後 藤 健 一	大垣市立西部中学校
事業部長		石 黒 崇 人	各務原市立蘇原中学校
研究副部長	小学校部会	吉 村 知 也	岐阜市立鶉小学校
	中学校部会	井 森 靖 人	郡上市立八幡西中学校
事業副部長		濱 正 人	池田町立池田中学校
書記(ホームページ担当)		土 井 智 文	岐阜市立長森中学校
会計		高 木 恵 子	可児市立今渡北小学校
		中 島 聡 志	岐阜市立草潤中学校
特別常任委員		永 井 悠 介	各務原市立川島中学校

■常任委員

評議員		石 樽 千 恵	岐阜市立城西小学校
監事		白 橋 茂 紀	岐阜市立岐阜中央中学校
		橋 本 文 洋	可児市立広見小学校

地区顧問	岐阜地区担当	清水 聖 士	岐阜市立本荘小学校
	西濃地区担当	小出 恵 理 子	大垣市立上石津学園
	美濃地区担当	西川 正 人	関市立下有知小学校
	可茂地区担当	遠藤 美 和	美濃加茂市立三和小学校
	東濃地区担当	岩井 裕 美	恵那市立東野小学校
	飛騨地区担当	伊藤 英 和	高山市立国府中学校
研究部常任委員	小学校部会G長	井深 公 仁 彦	大垣市立青墓小学校
		林 孝 行	池田町立温知小学校
		前田 賢 人	瑞浪市立瑞浪小学校
	中学校部会G長	宮川 拓 也	岐阜市立藍川東中学校
		平倉 一 輝	羽島市立桑原学園
		國枝 秀 祐	大垣市立興文中学校
		稲垣 佑 実	垂井町立不破中学校
		田森 朝 水	多治見市立小泉中学校
中西 俊 次	高山市立松倉中学校		
事業部常任委員	岐阜地区担当	村地 巧 美	岐阜市立岐阜清流中学校
	西濃地区担当	久保 田 恭 平	垂井町立不破中学校
	美濃地区担当	早川 真 理 奈	関市立緑ヶ丘中学校
	可茂地区担当	板津 沙 世	可児市立蘇南中学校
	東濃地区担当	土屋 智 裕	恵那市立恵那東中学校
	飛騨地区担当	松木 耕 平	飛騨市立神岡中学校

■ 研究員

小学校部会	大野 幸 恵	岐阜市立市橋小学校	江 川 緑	各務原市立川島小学校
	田中 真 由 子	岐阜市立本荘小学校	西田 杏 奈	大垣市立中川小学校
	武藤 恵 里 佳	関市立桜ヶ丘小学校	金田 ル ツ 紀	可児市立広見小学校
	石井 泉	多治見市立笠原小学校	松井 佑 斗	恵那市立大井第二小学校
	鈴木 友 浩	中津川市立東小学校		
中学校部会	徳田 良 磨	岐阜市立青山中学校	船渡 政 利	岐阜市立陽南中学校
	柴田 泰 成	各務原市立蘇原中学校	森 彩 乃	各務原市立中央中学校
	鈴木 勇 作	大垣市立東中学校	松本 純	土岐市立泉中学校
	小森 亮	恵那市立恵那西中学校	打田 卓 生	関市立緑ヶ丘中学校
	永田 貴 大	郡上市立白鳥中学校	長屋 聡 臣	関市立小金田中学校
	小川 裕 美	可児市立中部中学校	山田 麻 衣	郡上市立大和中学校
	石原文 太	中津川市立第一中学校	泉 香 里	郡上市立明宝中学校
	日下部 晴 信	下呂市立金山中学校	千嶋 里 英	高山市立中山中学校

令和6年度 岐阜県小中学校英語研究部会 郡市別代議員・研究協議員・研究テーマ一覧

		代議員		研究協議員		研究テーマ
		氏名	勤務校	氏名	勤務校	
1	岐阜市	栗本 圭介	長森南中	篠田 修	岩野田中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
2	羽島市	大鐘 弥生	中央中	神戸 翔太	竹鼻小	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて。 <研究内容>①「個別最適な学び」や「協働的な学び」を位置付けた単元指導計画の工夫 ②主体的、対話的な深い学びにつなげるためのICT等を効果的に活用した学習活動の工夫
3	各務原市	鎌倉 綾香	那加第二小	佐伯 忠彦	緑陽中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
4	山県市	米田 壽洋	高富小	後藤 翼	高富小	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
5	瑞穂市	迫田 一輝	穂積中	平田 檀	巢南中	コミュニケーション活動を通して、相互理解や異文化理解を深める児童・生徒を育てる指導を求めて
6	本巣市	2024/5/17 (金) に決定します。		巽 知史	根尾学園	2024/5/17 (金) 決定します。
7	羽島郡	堀田 萌子	松枝小	夏目 拓弥	岐南中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
8	本巣郡	高橋 智子	北学園	西脇 詩織	南学園	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
9	大垣市	渡邊 竜也	北中	細井 昭彦	江並中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
10	海津市	後藤 あゆみ	日新中	澁谷 美有	城南中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
11	養老	田中 友揮	高田中	小森 日向	養老小	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の在り方～
12	不破郡	久保田 恭平	不破中	森 愛夢	関ヶ原小	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
13	安八郡	渡辺 亜希子	輪之内中	都竹 佑香	登龍中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
14	揖斐郡	濱 正人	池田中	中島 祥吾	北和中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～

		代議員		研究協議員		研究テーマ
		氏名	勤務校	氏名	勤務校	
15	関市	早川 真理奈	緑ヶ丘中	高井佑治	桜ヶ丘中	できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～学習内容からみた単元や単位の時間の「理想の表現」を明確にし、それを子どもの姿で実現するための指導～
16	美濃市	高橋 加奈子	美濃中	小関 大地	美濃中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
17	郡上市	武藤 悠樹	高鷲中	水向 傑	郡南中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
18	美濃加茂市 加茂郡	西村 優	美濃加茂西中	田口 絢琳	八百津 東部中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～5領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の在り方～
19	可児市	濱田 歩	東明中	西原 裕貴	西可児中	「できた・わかった」を実感しながらコミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導 ～5領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中で、その到達を実感させる指導・評価の一体化～
20	可児郡	渡邊 一步	上之郷中	宮城 彩	御嵩小	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
21	多治見市	奥村 洋平	笠原中	南 匡彌	小泉中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の在り方～
22	土岐市	各務 晴菜	西陵中	松本 純	泉中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
23	瑞浪市	更家 希	瑞浪中	加藤 理恵	瑞浪南中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
24	恵那市	5月13日(月)に決定します。				
25	中津川市	柳瀬 芽以	第二中	渡邊 光貴	落合中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
26	高山市 大野郡	下屋 湧泉	高山北	樹下 貴普	久々野小	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～個別最適な学びと協同的な学びの一体化を求めて～
27	飛騨市	加藤絵里子	神岡小	都竹 菜央	古川中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
28	下呂市	都築 義弘	小坂中	森 光生	下呂中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～活動を通して習得し(思考しながら表現し)、仲間と共に高まる子どもの育成～

◆収入の部

科目	金額	内訳
会費	605,120	¥620×976名
前年度繰越金	0	
計	605,120	

◆支出の部

科目	金額	内訳	
研究大会	報償金		
	会議費		
	旅費		
	消耗品費		
	印刷製本費		
	通信費		
	使用料及賃借料		
研究調査	報償金		
	会議費		
	旅費		
	消耗品費	73,120	インク代、用紙代
	通信費	2,000	
	使用料及賃借料	40,000	会場使用料
	分担金	10,000	全英連分担金
	図書購入費		
成果刊行	消耗品費		
	印刷製本費	450,000	Ways of Teaching English
	通信費	30,000	
予備費			
計	605,120		

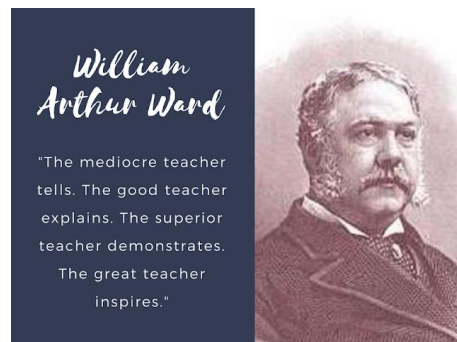
◆収支の部

収入	支出	収支
605,120	605,120	0

はじめに ~教える教育から子どもたちの可能性を引き出す外国語教育へ~

1. 外国語科の教師としての出会い

以前、文部科学省指定の研究開発学校で勤務していた時に、当時の文科省初等中等教育局視学官・太田光春氏（現名古屋外国語大学教授）の言葉と出会い、子どもたちに「たくさん話させること」だけにやっきになっていた私は、外国語科教員としての色々な迷いが晴れた瞬間がありました。



それは「私たちは、外国語を上手に話せる子を育てているのではありません。生涯に渡って外国語を学ぼうとする子を育てているんです。」という言葉でした。

外国語の授業を通して、子どもたちに「もっと英語を勉強したい。」という思いをもたせるにはどんな授業をしていったらよいのだろうか、私自身が子どもたちの学びと向き合えるきっかけをいただいたことを今でも鮮明に覚えています。

小学校部会は、今年度から、R9年度東海北陸公立学校英語研究大会岐阜県大会に向けての歩み出しになります。「子どもたちの学び」に軸足を置き、実践研究を進めていきましょう。

2. 不易と流行

昨今、ICT 機器を効果的に用いた授業等、様々な指導方法を用いた授業が行われています。また、「指導と評価の一体化」という言葉も、よく目にします。評価の変革を調べてみると、「指導と評価の一体化」は、実は、近年大切にされ始めたわけではなく、平成13年度からずっと言われ続けていたようです。教育において形や方法は変わっても、不変的なものがあるということです。つまり、変わらないものこそが教育の本質であるということです。

私たちは外国語科の本質を理解した上で、「学習指導要領」や「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」を拠り所としながら発信する必要があります。日頃の実践やこれまでの指導経験に加え、そうした明確な根拠を持ち、互いに学び合いながら本年度の研究を進めていきましょう。

◆R9年度を見据えた研究計画

「指導と評価の一体化」に関わり、文科省のHPにあるQAには『評価の結果によってその後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要です。』と記載されています。

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/faq.htm)

つまり、付けたい力を基に具体的なめざす姿を明らかにし、①児童の学習成果を的確にとらえること②評価の結果を教師が次の指導の改善に生かすこと、が重要です。それは、めざす姿に迫るための指導計画、指導内容を考え、評価計画を立て指導を行っていくことだと考えます。そう考えると、本部会においては、何か特別に新しいことをするというのではないと考えています。

一方で、指導と評価の一体化の出発点である付けたい力(本部会でこれまでに整理してきたもの)の妥当性と信頼性をさらに高めるためには、根拠となる資料を基に、到達目標の内容や整理の仕方など、様々な視点から考えることや、児童との評価内容の共有の仕方を考えることが必要だと考えています。そこで、以下のように三年間の研究計画を立てました。

R6年度 指導と評価の一体化をめざして ～児童の学習成果を的確に捉えるための指針の明確化～

根拠となる資料を基に、各学年の学習到達目標等を見直し、評価内容を整理するとともに、児童との評価内容の共有方法の在り方を明らかにする一年

R7年度 指導と評価の一体化をめざして ～指導計画と評価計画の作成～

整理された評価内容を基に、指導計画と評価計画を各Gの視点から評価方法を考え、作成・実践をする一年

R8年度 指導と評価の一体化をめざして ～指導計画と評価計画の見直しと共有の仕方の整理～

実践された指導計画と評価計画を見直し、児童のとの共有の仕方を整理する一年

◆今年度の小学校部会の研究メンバー

顧問校長	尾崎 校長先生	山県市立高富小学校
研究部長	松田 洋和	多治見市立北栄小学校
研究副部長	吉村 知也先生	岐阜市立鶉小学校
G長	井深 公仁彦先生	大垣市立青墓小学校
	林 孝行先生	池田町立温知小学校
	前田 賢人先生	瑞浪市立瑞浪小学校
研究員	石井 泉先生	多治見市立笠原小学校
	江川 緑先生	各務原市立川島小学校
	大野 幸恵先生	岐阜市立市橋小学校
	金田 ルツ紀先生	可児市立広見小学校
	鈴村 友浩先生	中津川市立東小学校
	田中 真由子先生	岐阜市立本荘小学校
	西田 杏奈先生	大垣市立中川小学校
	松井 佑斗先生	恵那市立大井第二小学校
	武藤 恵里佳先生	関市立桜ヶ丘小学校

(五十音順)

本年度の研究の方向

中学校研究部長 後藤 健一（大垣市立西部中学校）

1. 令和6年度とは…

令和3年度に、現行教科書が採用されてから、本研究部では、現行教科書での「指導と評価の計画」の作成と具体的な評価問題の作成をしてきた。しかし、この教科書も、来年度（令和7年度）からは、新教科書へと変わることとなる。そこで、今年度は、この3年間の実践を振り返り、来年度からの新教科書での「指導と評価の計画の作成」につなげていく1年としていきたい。

その際、令和5年度に実施された「全国学調（英語）」の分析結果をもとに、私たちの指導を振り返っていく。県教育委員会からも、県全体の傾向を踏まえ、具体的な指導改善ポイントとその具体例が示されている。（令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた指導改善資料2023）こういったものも参考にしながら、授業改善案を検討し、提案していきたい。

【令和6年度前後の本研究部の動きと、今後の見通し】

年度	県などの主な動き	本研究部の主な動き
R3	「新学習指導要領」の実施 「現行教科書」の採用	現行教科書での「指導と評価の計画」の作成 評価問題の作成
R4		
R5	「県大会（東濃大会）」の開催（3年に1度） 「全国学調（英語）」の実施（4年に1度）	
R6		R3～5年度を振り返り、R7年度につなぐ
R7	「新教科書」の採用（4年に1度）	新教科書での「指導と評価の計画」の作成 ⇒県大会や東海北陸大会につなぐ
R8	「県大会（岐阜大会）」の開催（3年に1度）	
R9	「東海北陸大会（岐阜大会）」の運営・実践発表	

2. 本県の全国学調（英語）の結果について

では、本県の全国学調（英語）の結果から、どのようなことが言えるのだろうか。児童・生徒質問紙の結果と教科調査（英語）の結果と2つから、生徒の実態を捉えていく。

2-① 児童・生徒質問紙の結果から

児童・生徒質問紙の「英語の勉強は好きですか」に対する回答について、肯定的な回答をした岐阜県の小学校6年生の割合は、67.0%であった。一方、同じ質問に対する肯定的な回答をした岐阜県の中学3年生の割合は、50.0%であり、17.0%低い結果となっている。また、令和3年度の時の割合は、55.4%であり、5.4%の減少が見らる。つまり、我々は生徒たちのために様々な努力をしているはずだが、県全体としては、中学校3年間、英語の学習をする中で、英語の勉強が好きでない生徒が増えている。

このような結果になったのは、なぜだろうか。様々な要因が考えられる。教科書も難しくなり、分からないから好きではない。言語活動の相手意識・目的意識が不十分であり、必然性や楽しさを感じられていない…。いずれにせよ、このような生徒の実態を真摯に受け止め、指導改善を図っていく必要がある。

2—② 教科調査（英語）の結果から

教科調査（英語）の結果は、以下の表に示すように、全体正答率 48.0%であり、「聞くこと」「読むこと」に比べ、「書くこと」の正答率が低く、「知識・技能」に比べ、「思考・判断・表現」の正答率が低いという結果であった。また、特に正答率の低い4題は、いずれも「思考・判断・表現」の問題であった。

【令和5年度全国学力・学習状況調査（英語）の結果】

	正答率 岐阜県	正答率 全国
全体	48.0%	45.6%
聞くこと	60.7%	58.4%
読むこと	54.1%	51.2%
書くこと	26.9%	23.4%

	正答率 岐阜県	正答率 全国
知識・技能	54.9%	51.5%
思考・判断・表現	41.1%	38.8%

【令和5年度全国学力・学習状況調査（英語）の結果】

	問題の概要	出題の主旨	学習指導要領の領域 評価の観点	正答率 岐阜県	正答率 全国
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、 <u>必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる</u>	聞くことア 思判表	45.8%	41.2%
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、 <u>必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる</u>	読むことア 思判表	37.3%	35.9%
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、 <u>短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる</u>	読むことイ 思判表	34.4%	34.7%
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、 <u>事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる</u>	書くことイ 思判表	8.4%	7.4%

これらの結果を受け、県教育委員会からも「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた指導改善資料 2023」において、以下の2点について指摘されている。①「聞くこと」「読むこと」における、必要な情報、概要、要点を捉える力を養う指導 ②「書くこと」における、正確性や一貫性を高める指導

以上のことから、今年度の Ways 作成にあたって、「英語の勉強が好き」という生徒を増やすためには、どのような指導の工夫をするとよいのかを提案いきたい。そこで、詳しくは、次のパートで述べるが、今年度、「指導と評価の計画」作成を行わず、以下の3つのチームを立ち上げ、指導改善の具体を提案する。

【今年度新たに立ち上げるチーム】

①知識・技能の指導 ②思考・判断・表現（内容理解）の指導 ③思考・判断・表現（発信）の指導

3. 本年度の研究の方向

先にも述べたように、令和3年度に、現行教科書が採用されてから、本研究部では、現行教科書での「指導と評価の計画」の作成と具体的な評価問題の作成をしており、来年度（令和7年度）からは、新教科書へと移行することとなる。その具体的な制作物は、下の表の上段にまとめた通りである。

New Horizon については、全学年・全単元の「指導と評価の計画」と「パフォーマンステスト」の作成が完了しており、残すところは、1～3年の3学期末テストとなる。New Crown は、全学年・全 Lesson の「指導と評価の作成」が完了しており、残すところは、3年の Project 1～3となる。

【各年度における Ways の内容（見直しを含む）】

	NH		NC
	Communicative Activity 部会	テスト部会	
R3 年度	指導と評価の計画 1年 U1～5 2年 U1～7 3年 U1～6	パフォーマンステスト 1年 U1～11 2年 U1～7 3年 U1～6	指導と評価の計画 1年 L1～8
R4 年度	指導と評価の計画 1年 U6～11 1～3年 Stage Activity 1～3	パフォーマンステスト 抽出単元 期末テスト 1～3年 1学期末	指導と評価の計画 1年 Project 1～3 2年 L1～7
R5 年度	指導と評価の計画・展開案 各学年抽出単元（1年 U8, 2年 U3, 3年 U5）	期末テスト 1～3年 2学期末	指導と評価の計画 3年 L1～7 2年 Project 1～3
R3～5 年度の 実績	完了！ 指導と評価の計画の作成	完了！ パフォーマンステスト まだ！ 期末テスト 1～3年 3学期末	完了！ 指導と評価の計画の作成 全学年全 Lesson 1, 2年 Project 1～3 まだ！ 3年 Project 1～3

↓↓↓

R6 年度 (案)	指導改善の具体 ・知識・技能 ・思考・判断・表現（内容理解） ・思考・判断・表現（発信）	期末テスト 1～3年 3学期末	指導と評価の計画 3年 Project 1～3
R7 年度 (案)	・新教科書での「指導と評価の計画」の作成 ・新教科書での評価問題の作成（パフォーマンステストや期末テスト）		

これらを受け、昨年度に引き続き、New Horizon では、1～3年の3学期末テストを作成し、New Crown では、3年 Project 1～3の指導と評価の計画」の作成を行う。また、New Horizon の「指導と評価の計画」の作成は完了していることを受け、3つのチームで、指導改善の具体を提案する。各チームの編成は以下のようになり、各チーム研究員・研究協議員は、それぞれ2～3名ずつ所属する。

	チーム	G 長	研究員	研究協議員
N/H&N/C 混合 指導改善の具体	知識・技能			
	思・判・表 （内容理解）			
	思・判・表 （発信）			
N/H テスト	1年 3学期末			
	2年 3学期末			
	3年 3学期末			
N/C 指導と評価の作成	3年 Project 1～3	・G 長はなしで、井森先生がアドバイザーとして動く。 ・美濃地区の研究員・研究協議員合わせて3名。		

4. 「指導改善の具体」について

今年度新たに立ち上げる「指導改善の具体」が、どのような意図で、どのような内容の提案をするのかについて述べる。この部会では、「音読練習は、どのようにするのか」といった基本的なことから、「生成 AI をどのように活用するのか」といった発展的なことまで、一つのテーマを決め、具体的な改善策を提案する。作成者が普段感じている悩みや工夫して取り組んでいることは、県内の先生方にも共通する部分があり、有益なものになると考える。各チームでの具体例を上げる。

【指導改善の具体の例】

	知識・技能	思考・判断・表現（内容理解）	思考・判断・表現（発信）
応えたい ニーズ (例)	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習ってどうするの？ 新出単語って、どう指導するの？ 新出表現って、どう指導するの？ 	<ul style="list-style-type: none"> Read and Think って、どう指導するの？ 概要を捉える力って、どう高めるの？ 全部日本語で意味を確認しないと不安。どうするといいの？ 	<ul style="list-style-type: none"> 書く正確性を高めるには、どう指導するの？ どうしたら即興的に話せるようになるの？ 小学校の学習をどうつなげるといいの？
実践の具体 (例)	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習の指導の具体を提案 新出単語の指導の具体を提案 Mini Activity の指導案を提案 新出表現を使った活動を提案 	<ul style="list-style-type: none"> 英文の概要を捉える活動を提案 英文の必要な情報を捉える活動を提案 英文の要点を捉える活動を提案 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた英文を修正する指導の具体を提案 終末の活動につなげる指導の具体を提案

さらに具体例を上げると、東濃大会（多治見市）での松本純先生（小泉中）の授業では、市長のビデオレターを持ってきて、提案内容を考えさせていた。市教研で見た國枝秀祐先生（興文中）の授業では、自分の考えをアウトプットすることを終始目的に、必要な情報を読み取らせていた。宮川拓也先生（陽南中）は、自分の考えを深めるために、様々な文章を読ませたり、動画を見せたりしていた。東濃教育事務所の勝部先生は、Ways No.63 の寄稿文の中で、Flip grid という動画投稿アプリを使用した授業実践を紹介していた。大垣市内のある小学校では、中学校とのコラボ授業を計画している。

こういったちょっと特別な手を打った指導も含め、先にも上げたような、音読指導や単語指導といった基礎的な指導について、具体を提案することで、私たちの指導の幅を広げる Ways を作成していきたい。また、実践の具体を考える際、1人1台タブレット（ICT）は、解決策を考える際の重要なツールの一つになると考える。

今年度は、このような「指導改善の具体」を提案し、「分かるから、英語が好き」「伝わって楽しいから、英語が好き」といった生徒を一人でも多く増やしていきたい。

5. N/H テスト部会、N/C 指導と評価の作成部会について

昨年までの方針で、未作成の資料を作成していく。

6. その他

- 研究協議会前に、学年ごとに、最近の授業実践を交流する時間（15分くらい）取ってはどうか。
- 以下に、各部会の提案資料の枠・例を記載する。（テスト部会と N/C 部会の枠は、後日追加。）
- 補助資料：中学校部会のメンバー

研究部長	1名 後藤	研究副部長	1名 井森
G長	6名 宮川, 平倉, 國枝, 稲垣, 田森, 中西		
研究員	16名 N/H	11名	N/C 5名
研究協議員	15～20名程度		

指導改善の具体 「思考・判断・表現（内容理解）」 概要を捉える力をつけよう！

NEW HORIZON 第2学年 Let's Read2 Pictures and Our Beautiful Planet

キャッチーなタイトルを

【作成者：大垣市立西部中学校 後藤健一】

1. こんなニーズに応えたい！

Let's Read の長文って、難しいし、指導に時間がかかるし、説明ばかりになってしまう。どのように指導するといいの？

1. 「どんな手立てをうったのか」「なぜそのような指導をしたのか」を述べる。

2. 本提案のウリ：タブレットを活用し、文章の並べ替え

学習支援ツール（オクリンク）を使用し、学習カードを生徒に送信する。各段落の内容を表す英文を正しく並べ替える活動を行うことで、長文の概要を捉える力を養う。

3. 実践の具体

3. 指導案や単元指導計画、ワークシートやスライドなど、提案内容の具体を書く。

1 / 2 時間目 課題：星野道夫さんは、どのような人生を送ったのだろう。

【生徒に送信するカード】

For 19 years, he traveled around Alaska.

Michio wrote a letter to the mayor of Shishmaref.

He was killed by a bear when he was camping alone in Kamchatka in 1996.

For one summer, Michio lived among the Inuit people.

After Michio finished university in Japan, he returned to Alaska.

【生徒が文を並べ替えたカード】

Michio wrote a letter to the mayor of Shishmaref.

For one summer, Michio lived among the Inuit people.

After Michio finished university in Japan, he returned to Alaska.

For 19 years, he traveled around Alaska.

He was killed by a bear when he was camping alone in Kamchatka in 1996.

- ・各段落の内容を表す英文をランダムに並べたカードを作成し、生徒に送信する。
- ・生徒は、教科書を読みながら、正しい順番に並べ替える。
- ・並べ替えた後、日本語で、星野道夫さんがどのような人生を送ったのかを説明する。

2 / 2 時間目 課題：星野道夫さんは、アラスカでどのようなことを考えていたのだろう。

【生徒に送信するカード】

Michio's Life

Michio wrote a letter to the mayor of Shishmaref.

For one summer, Michio lived among the Inuit people.

After Michio finished university in Japan, he returned to Alaska.

For 19 years, he traveled around Alaska.

He was killed by a bear when he was camping alone in Kamchatka in 1996.

Michio's Thought

Michio's life was short, but his pictures will live with us forever.

Michio shared his feelings of freedom and wonder in his photographs.

Michio felt lonely in the wilderness, but he also felt free.

Michio understood something very important - all living things share this planet.

He was attracted to a photograph in a book about Alaska.

事業部活動報告及び方針

文責 事業部長 石黒 崇人

1. 令和6年度活動方針

◎岐阜県小中学校英語研究部会事業部の活動を創造的・発展的に推進する

1. 令和6年度の岐阜県中学校英語弁論大会及び中学校英語スピーチコンテスト(地区大会)が円滑に進行できるよう企画・運営していく。
2. 教科書準拠のワークブックを現場の声や新学習指導要領の内容を踏まえ、岐阜県版として特色あるものにする。
3. 各郡市の代議員との連携を深め、事業部の活動へ生かしていく。

2. 高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会(中央大会参加対象者)の報告

地区	学校名	氏名	高円宮杯結果
岐阜	富田学園岐阜東中学校	尾関 元一	予選通過ならず
飛騨	高山市立東山中学校	山崎 麻央	予選通過ならず
西濃	大垣市立南中学校	高井 創羽	予選通過ならず
岐阜	富田学園岐阜東中学校	川口 真央	※特別枠として、中央大会にて、他の出場者のスピーチを聞いた。

3. 第43回岐阜県中学校英語弁論大会を振り返って

(1) 地区大会の参加状況の報告

地区名	岐阜	西濃	美濃	可茂	東濃	飛騨	合計
参加人数	89	59	44	41	76	35	344
参加校	37	24	18	18	32	20	149
県大会出場者	13	9	7	5	11	5	50

4. 令和6年度では

昨年度、岐阜県教育委員会より藤田智一先生の御指導や部会長後藤喜朗校長、大会長平工雅之校長より御助言をいただき、参集型の大会を開催することができました。ありがとうございました。

また、これまでと同様に、参加申込書と同時に動画を提出していただいたり、スピーチ原稿集や申込関係書類をデジタルにしたりと、手続きをスムーズかつ簡易的なものにしました。これにより、運営側と参加側とが負担なく進めることができました。これらのシステム構築のために地区大会で実施し、有効なものであることを確認できました。今年度は、会場の変更等ありますので、情報共有を行い、今年度も事業部として丁寧に運営していきたいと考えています。

5. 令和6年度スピーチコンテスト地区大会について【開催予定日】

地区・県	日時	会場
岐阜	8月20日(火)	岐阜聖徳学園大学 羽島キャンパス
西濃	8月22日(木)	わいわいプラザ垂井
美濃	8月20日(火)	関市わかさプラザ
可茂	8月19日(月)	広見地区センター
東濃	8月20日(火)	瑞浪市総合文化センター
飛騨	8月20日(火)	高山市教育研究所、一之宮公民館
県大会	9月28日(土)	岐阜聖徳学園 羽島キャンパス[予定]

6. 令和6年度の事業部の主な活動内容(予定)

- ・中学生英語スピーチコンテスト地区大会及び県大会の準備・運営
- ・岐阜県版ワークブックの採用状況の確認・採用の依頼
- ・岐阜県版ワークブックに関する意見交流 ⇒ 事業部での分析

研究部・事業部の昨年度の成果と来年度の活動計画案

主務: 田中 大輔(関市立下有知中学校)

【令和6年度の研究テーマ】

「できた・分かった」を実感しながら、
コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
～五領域における学習到達目標を明らかにし、
言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～

1 はじめに(昨年度の振り返り)

昨年度は、東濃大会が開催され、東濃5市をオンラインで結ぶという画期的で先進的な取組が行われた。全体会において、国立教育政策研究所教育課程調査官の入之内昌徳様から「岐阜県の組織的な研究体制の在り方」「研究授業に向かう教師の構え」「ねらいと評価を明確にした単位時間の学習活動」について、大変評価をしていただいた。Warm hearted communication を合言葉として、小中英研の研究主題である「コミュニケーションに挑み続ける児童生徒」を児童、生徒の姿で具現した実りの多い大会となった。

研究部の活動では、Ways 作成に向け研究協議員会を4回実施した。「初任者や英語が専門ではない先生方にも分かりやすく、授業作成のヒントになる Ways」を目指し、単元や授業の構想の根幹になる部分に焦点を当てて討議を進めてきた。また、中学校部会のテスト作成部会では、定期テストの問題についても討議を行い、知識・技能や思考力・判断力・表現力など観点別に問題例を作成し Ways に掲載した。

事業部では、スピーチコンテストの参加申込における手続きをスムーズかつ簡易的なものにした。このことにより、運営側と参加側とが負担なく進めることができた。また、岐阜県版のワークブック(NEW APPROACH)についても見直しを行った。さらに、単元テストなどで使用可能となっている「絶対評価プリント」(岐阜県版)についての意見交流を行い、問題の質を高める討議ができた。

2 研究部の活動

小学校部会

- ①Here We Go!部会 議事録、指導と評価の計画
- ②Blue Sky 部会 議事録、指導と評価の計画
- ③NEW HORIZON Elementary 部会 議事録、指導と評価の計画
- ④ICT活用事例集

昨年度は、今年度より教科書が改訂されることを見越して、新たに抽出単元の指導計画を作成するのではなく、指導計画が出来上がるまでの過程を可視化することで、より汎用性のある提案を行った。上にある①～④について、Ways に記載をした。

中学校部会

【Communicative Activity 部会】

NEW HORIZON	NEW CROWN
・評価方法を明記した「指導と評価の計画」作成 ・抽出単元における展開案の作成	・2年生 Project の『指導と評価の計画』作成 ・3年生全 Lesson の『指導と評価の計画』作成

評価方法を明記した「指導と評価の計画」を作成することで、学習到達目標と単元における目標、評価規準とのつながりを明確にした、「指導と評価の計画」を作成した。また、各学年において、単元を抽出し、展開案を作成し、指導の詳細が読み手に伝わるようにした。

【テスト作成部会】

NEW HORIZON を使用している学校の研究員・研究協議員がテスト問題を作成した。昨年度に、小中英研における「聞くこと」「読むこと」の学習到達目標を作成し、テスト問題と、学習到達目標とのつながりが Ways の読み手に伝わるようにした。また、「知識・技能」、「思考・判断・表現」それぞれの問題についての捉えを記載し、読み手にとって、問題作成のヒントになるものを作成した。

3 事業部の活動

昨年度から、マスクを外し、スピーチをすることができるようになった。参加申込書と同時に動画を提出していただいたり、スピーチ原稿集や申込関係書類をデジタル化したりと、これまでの手続きをスムーズかつ簡易的なものにした。これにより、運営側と参加側とが負担なく進めることができた。また、これらのシステム構築のために地区大会で実施し、有効なものであることを確認できた。

参加人数については、1校当たりの参加可能人数を制限しているため、コロナ禍以前に比べるとやや少ないが、参加校数は、コロナ禍以前と同じくらいの数に戻ってきている。より多くの希望者が参加できるよう運営方法については検討していきたい。

各地区大会及び県大会でお手伝いいただいた先生方が柔軟に対応してくださったおかげで、無事に大会を終えることができた。今後に向けても、運営側や審査員、参加者など誰にとっても、分かりやすいスピーチコンテストになるようにしていきたいと考えている。

県内版ワークブックの作成については、昨年度新たに「絶対評価プリント」の岐阜県版を作成した。中学校の研究部長、研究副部長にも協力してもらい、テスト作成部会で討議していることを反映させた。「思考・判断・表現」の問題について、出題方法や評価方法について討議し、より質の高い問題作成ができるようにした。

4 本年度(令和6年度)の活動計画(案)

4月20日(土) 第1回常任委員会及び第1回G長会

5月15日(水) 第1回代議員会(リモート開催)

5月18日(土) 第1回研究協議員会

6月20日(木) 第2回研究協議員会

8月 各地区でのスピーチコンテスト ※会場については、事業部提案参照

20日(火) 岐阜地区 22日(木) 西濃地区 20日(火) 美濃地区
19日(月) 可茂地区 20日(火) 東濃地区 20日(火) 飛騨地区

8月31日(土) 英語弁論大会準備委員会

9月28日(土) 第43回岐阜県中学校英語弁論大会

10月22日(火) 第3回研究協議員会

12月 7日(土) 第4回研究協議員会

※ スピーチコンテスト・英語弁論大会以外の日程は、現段階での案ですので、変更の可能性があります。

1月 6日(月) 第2回G長会

2月25日(火) 第2回代議員会(リモート開催)

5 その他・連絡

【今年度のキーワード】

『来てよかった』と思える小中英研

○学校に持ち帰り、児童生徒に還元できる提案

○英語科教員同士のつながりを感じられる交流

今年度における小中英研のキーワードを「『来てよかった』と思える小中英研」として、運営していきたいと考えています。「明日から取り組んでみよう」と思える提案があることや、交流を通して、学ぶことができることが、大切なポイントだと考えています。これらのポイントが、参加していただいた先生方に実感できるように、運営していく所存です。